

# 高砂市工業用水道事業の紹介

## ○事業の主旨

高砂市工業用水道事業は、播州平野を貫流する加古川河口にあり、水陸運輸の便と阪神地区に近接している地域に設置しております。

しかし、海岸地帯であるのと加古川流末デルタ上に発達した町であるので、井戸水は塩分を含むほか、一般的に質は良くない状況であり、工場誘致の目的で設置されたものです。

## ○事業の経緯

高砂市工業用水道事業は、大正10年11月5日に三菱製紙株式会社高砂工場に加古川の表流水を送水したのが始まりで、次に昭和11年2月1日には当時の鐘淵紡績株式会社高砂人絹工場に送水を開始しており、現在は、三菱製紙株式会社高砂工場と株式会社カネカ高砂工業所2社に加古川の表流水を送水しております。

## ○施設並びに需要者の概要

高砂市工業用水道事業は、加古川の表流水を加古川市米田町船頭字奥野21番の地先の高砂取水場で取水しており、取水施設としては固定堰268.5m、門扉堰73.8mである。その後農業用水の用水路と共有した、1,219mの堤外水路また700mの堤内水路を経て配水池から送水ポンプで、三菱製紙株式会社高砂工場には、馬蹄形の暗渠で2,116mの距離を要して最大70,000m<sup>3</sup>/日を、株式会社カネカ高砂工業所には、鑄鉄管で延長3,700mの距離を要して最大48,000m<sup>3</sup>/日の契約水量以内で送水しております。

## ○事業の特徴

本工業用水道事業は、創設当初から現在に至るまで設備投資費用並びに運営費については企業の寄付金又は負担金でまかなっており、料金体系を取り入れていない関係で剰余金等は生じない会計となっております。

●高砂市工業用水道施設概要図

